

編集後記

本年度の『眞實心』は、八人の先生方の講話十二編を収録させていただき、大変内容豊かなものとなりました。

「人間」となることの問題を、何人かの先生が共通して取り上げておられますが、いつの時代も変わらぬテーマでありながら、今これが取えて論じられるところに、現代の人間の状況の深刻さが浮き彫りにされているといえましょう。廣小路先生の講話の中に、「どんなに有能でもけわしい心と顔つきをした人の存在は、自他ともに生命を萎縮させてしまう」との引用文があります、我々は自分の生活の快適さを追い求める陰で、とてつもなく大きな代償を支払わされている気がしてなりません。学長のいわれる「和顔愛語」は言葉にしてみれば何でもないことのようにありながら、その実その実践においては容易に叶わぬ重みを持って、我々に迫ってくるものがあります。

現実の苦悩や不安を解消する術は豊富にある現代ですが、窮極的な人間の問題を解決するよ

すがに、この『眞實心』がお役に立てば幸いです。

最後に、毎回のことながら、文責はひとえに編集者にあります。誤字誤植等、お許しいただきますと存じます。

一九八六年三月

編集者記

一九八六年三月一日発行

眞 実 心 第七集 非売品

発行所 光華女子大学
光華女子短期大学

〒615 京都市右京区西京極葛野町三八番地
電話〇七五三二二一七八三(代)

印刷所 (株)石田大成社